

- 浜通り地域等における産業の復興のため、同地域での**新たな産業の創出**を目指す構想。
- **6つの重点分野**を位置付け、産業集積、教育・人材育成、交流人口拡大、情報発信等に、「**福島イノベーション・コースト構想推進機構**」（2017年7月～、理事長 齋藤 保氏（IHI相談役））、国、福島県、市町村等が連携し取り組んでいる。

6つの重点分野

<p>廃炉</p> <p>国内外の英知を結集した技術開発</p> <p>廃炉作業などに必要な実証試験を実施する「福島復興技術開発センター」</p> 	<p>ロボット・ドローン</p> <p>福島ロボットテストフィールドを中核にロボット産業を集積</p> <p>陸・海・空のフィールドロボットの使用環境を再現した「福島ロボットテストフィールド」</p> 	<p>医療関連</p> <p>技術開発支援を通じ企業の販路を開拓</p> <p>「ふくしま医療機器開発支援センター」</p> 
<p>エネルギー・環境・リサイクル</p> <p>先進的な再生可能エネルギー・リサイクル技術の確立</p> <p>再生可能エネルギーの導入促進 「南相馬 万葉の里風力発電所」</p> 	<p>農林水産業</p> <p>ICTやロボット技術等を活用した農林水産業の再生</p> <p>ICTを活用した農業モデルの確立「トラクターの無人走行実証」</p> 	<p>航空宇宙</p> <p>「空飛ぶ車」の実証や関連企業を誘致</p> <p>「航空宇宙フェスタふくしま」</p> 

(公財) 福島イノベーション・コースト構想推進機構、国、福島県、市町村等

<p>産業集積</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ トップセールスでの企業誘致活動、マッチング支援 ▶ 工場建設や新たな製品開発等への支援 	<p>教育・人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 教育機関と連携した人材育成講座の実施 	<p>交流人口拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 地域と連携して新たな魅力を創造 	<p>情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 東日本大震災・原子力災害伝承館の開催や、シンポジウムの開催
---	--	--	--

福島イノベーション・コースト構想については、震災及び原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業・雇用を回復するため、当該地域の新たな産業基盤の構築を目指して、2014年6月に、福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想研究会において取りまとめられました。

2019年11月25日の「第3回福島イノベーション・コースト構想推進分科会」において、浜通り地域等に新たな産業基盤の構築を目指す同構想の更なる具体化を軸に、中長期的かつ広域的な観点から地域が目指す自立的・持続的な産業発展の姿と、その実現に向けた国、県、市町村、関係機関が進める取組の方向性を示す「福島イノベーション・コースト構想を基軸とした産業発展の青写真（案）」について議論を行い、同年12月9日に復興庁・経済産業省・福島県において、とりまとめました。

同構想の実現に向けて、福島イノベーション・コースト構想推進機構を中心に、廃炉研究開発、ロボット研究・実証、情報発信拠点（東日本大震災・原子力災害伝承館）等の拠点整備や、環境・リサイクル分野、水素や再生可能エネルギーなどのエネルギー分野、農林水産業・医療関連・航空宇宙分野に係るプロジェクトの具体化、産業集積、人材育成等に取り組んでいます。

主な動きとしては、2020年3月に全面開所した「福島ロボットテストフィールド」において、2024年11月末までに、1,503件の実証実験が行われるとともに、同フィールドを核としつつ、浪江町や双葉町といった周辺地域に事業拡大する企業も出てきています。また、2022年6月7日に閣議決定された「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画・フォローアップ」では、福島浜通り地域をスタートアップ創出の先進地とすることを目指し、実証フィールドの整備やスタートアップの実用化開発等の重点支援等を行うこととされたことを受け、福島ロボットテストフィールドにおいて、広域飛行ルートの整備に取り組むとともに、地域復興実用化開発等促進事業（イノベ実用化補助金）においては、2023年度から、スタートアップの優遇措置（スタートアップへの加算措置）を講じました。

本資料への収録日：2018年2月28日

改訂日：2025年3月31日